

# 石高神社報

## 第二十五号

発行日 平成十九年十二月十五日  
発行者 石高神社 宮司 高原 章兆  
発行所 岡山市円山八五三  
電話 ○八六―二七七―九〇〇三

### 社務所再建始まる

念願の社務所再建が始まりました。前の社務所は、屋根に穴が開き、床も落ちて危険な状態になりましたので、約二十年前にやむなく倒しました。その後、再建の目途がたたないまま十年ほどたちましたが、十年前に長期計画をたてて、このたび、やっと再建にこぎつけることができました。そして、十月十四日には、氏子総代参列のもとに地鎮祭を執り行いました。すでにお知らせしておりますように、これには全額御神札の頒布による十数年分の収益金を充てることにしています。

### 隨身門修復御寄進のお願い

隨身門は江戸時代末期の建物ですが、三年前の台風で、屋根瓦が落ち、少し傾いています。応急処置をしていますが、危険な状態にあります。特に東西側の屋根瓦が下がっているのです、注意が必要です。事故があつてからでは遅いので、できるだけ早く修復工事にかかりたいと考えています。修復費用は氏子の皆様のご寄進に頼るしかありません。出費多端の時だとは存じますが、なにとぞ

ご浄財のご寄進を賜りたく存じます。この社報とは別に趣意書を作成してお願いに参りますのでその節はよろしくお願い申し上げます。時期は春ごろの予定です。

### 境内東側に新しい道

九月下旬に境内東側の豎巖稻荷と金祐稻荷の間まで自動車が上がることができるよう道をつけました。これにより、社務所の再建や隨身門の修復工事が効率良く進めることができるようになりました。また、荷物が境内に運びやすくなれば、祭りの夜店も増えることが見込まれます。しかし、神域であることと防犯上の観点から、特別の場合を除いて車が進入できないように鎖をかけることにしています。車は新しくつけた道の最上部まで登ることができませんが、塀の内側の境内には入ることができません。ご協力をお願いします。



## 石造物に注意！

神社の石造物が倒れて死傷するという事故がたまに報道されます。当社においてもよそごとではありません。玉垣（石でできた手すり）は、一部分をコンクリートで補修していますが、もともと石を組み合わせてあるだけです。灯ろうは石を重ねてあるだけですし、石鳥居も、石を組み合わせて立てているだけです。全体的に老朽化していますので、上にあがったり、本来の用途でない使い方をした場合には倒壊の恐れがあります。これらの修繕には、かなりの費用がかかります。とりあえず、ご家庭でも子供さんに十分注意するようにご指導をお願い致します。

## 神職二人になる

この度、宮司の妻が神職の資格を取得しました。近々、石高神社の権禰宜になる予定です。宮司は勤めに出ていますので、今までは平日のお参りや地鎮祭などの出張祭典をお断りすることが多かったのですが、平日もお受けできるような態勢になりました。

権禰宜というのは、神職の役職のひとつで、複数の神職がいる神社では、宮司、禰宜、権禰宜がいます。長男、次男もすでに資格を取得していますが、仕事や学業のため、ほとんど神務に携わっていません。

## 昔あった行事① 会陽

今年三月に発行された「岡山県の会陽の習俗 岡山県教育委員会編」によると、明治十八年三月四日の「山陽新報」に「一昨夜会陽をなせしが、」と載っており、三月二日の夜に会陽が行われたことがわかります。当時、県南のこのあたりでさかんに行われていたとのことでした。

これを機会に、昔行われていたが、現在は行われていない祭りや御神札頒布などの行事についてシリーズで取り上げてみようと思います。星まつりの御神札や旧正月のころ配っていた御神札などが残っていますが、すでにどういう意味があったのか、わからなくなっています。覚えている方がおられましたら、ぜひお聞かせください。

いしたか

## 石高神社略記

御祭神

おおなむちのみこと  
大己貴命

すせりひめのみこと  
須勢理姫命

ちゅうあいてんのう  
仲哀天皇

じんぐうこうこう  
神功皇后

おうじんてんのう  
応仁天皇

出雲の神様を主祭神に、合わせて八幡様をお祀りしています。大己貴命は出雲神話の主役であり、別名もたくさんありますが、神話の「因幡の白うさぎ」に登場する大国主命として有名です。また、仏教の守護神と習合して、七福神のひとつである大黒様としても知られています。須勢理姫命は大己貴命の正妻です。

八幡さまとはふつう応神天皇を首座に比売神（ひめがみ）・仲哀天皇・神功皇后のことをいいます。

当社の創立年月はよくわかりませんが、現存する神名帳で一番古い備前国総社神名帳の綿抜本または総社本（八六三年頃）に石高神社と載っており、備前の式内、式外古社百二十八社の内の一社です。

社伝によりますと、今の宮山から北手の高倉山頂上に大己貴命を祀る石高神社があり、今の嶽字岩坪に須勢理姫命を祀る八幡宮があったそうです。この両社を天和三年（一六八三年）頃に現在の地に合祀し、岩坪八幡宮と称して尊敬していました。このため、江戸時代の書物には、八幡宮として載っています。

その後明治四年に旧号の石高神社に復し、幡多郷の総鎮守産土神と定められ、大正三年には村社になりました。幡多郷というのは、一七二一年編纂の備陽記によりますと、清水・赤田・藤原・高屋・関・沢田・山崎・円山・湊の各村をさしており、当社は古代から栄えていた操山系の北側や新たに開発された南側の人々の生活や湊方面を航行する船の安全を護って来ました。

## 石高神社のおもな行事

### 歳旦祭および初詣

一月一日午前零時より歳旦祭を行います。この直後の一時ごろまでと三が日の午前九時ごろから夕方五時ごろまで新年の家内安全祈禱と厄払いを行います。

### どんど焼きおよび古神札焼却祭

平成二十年は一月十四日（月）午前十時より行います。正月のお飾りのほか古札焼却も行います。なお、最近問題になっているダイオキシン発生の観点から、プラスチック類はなるべくはずしてご持参ください。当日は、はずす作業をした後に焼却します。ぜんざいも用意しています。

### 厄払い

数え年でその年の厄年、祝年の人がお参りする慣わしです。当社では、二月一日にお参りする慣わしがありますが、最近では、元日以降節分までにお参りする方が増えてきています。平成二十年のおもな厄年と祝い年を表にしましたので参考にしてください。祝い年は男女ともに同じです。

### 輪くぐり（夏祭り）

七月三十一日晚は茅の

当日、お手伝いをお願いできたら、ありがたいのですが。

男の厄年		女の厄年	
二十五歳本厄	昭和五十九年生	十九歳本厄	平成二年生
四十一歳前厄	昭和四十三年生	三十二歳前厄	昭和五十二年生
四十二歳本厄	昭和四十二年生	三十三歳本厄	昭和五十一年生
四十三歳後厄	昭和四十一年生	三十四歳後厄	昭和五十年生
祝い年		祝い年	
六十一歳還暦祝	昭和二十三年生	七十歳 古希祝	昭和十四年生
七十歳 傘寿祝	昭和七年生	七十七歳喜寿祝	昭和七年生
八十歳 傘寿祝	昭和四年生	八十歳 傘寿祝	昭和四年生
八十八歳米寿祝	大正十年生	九十歳 卒寿祝	大正八年生
九十歳 卒寿祝	大正八年生	九十九歳白寿祝	明治四十三年生

輪をくぐる夏祭りの輪くぐりがあります。夏越し（なごし）の大祓えと備後国風土記の蘇民将来の故事に由来する疫病封じがいつしよになったもので、年の前半の罪・穢れを祓い、疫病から身を守っていたたくお祭りです。事前に配布された「ひとがた」に名前などを書いて身を払ってご持参ください。「ひとがた」は拝殿にも置いてあります。晚五時過ぎごろから八時半ごろまでは、夜店も出て賑わいます。

### 秋祭り

十月三日から五日の三日間です。本来は春祭りで秋の豊作をお祈りし、それを受けて収穫できたことに感謝してお祝いする祭りです。三日の晩が氏子がお参りする日になっており、この日は夜店やはつぴ姿の子供達で賑わいます。晚六時ごろから九時前までにお参りください。五日には氏子総代が参列して祭典を行っています。

### 七五三詣で

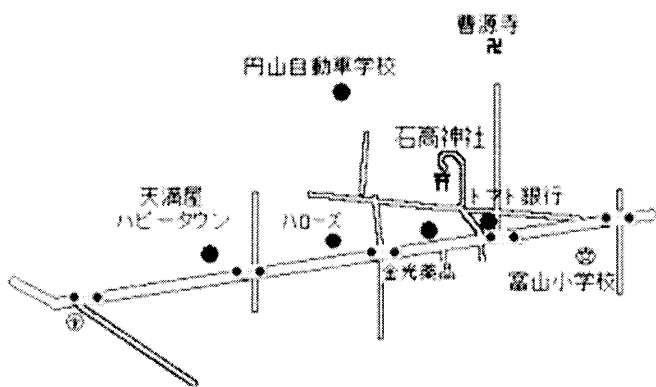
氏神様にお参りし、ここまで成長したお礼を言い、以後の無病息災を祈願します。十一月中にお参りください。おみやげも用意しています。

その他、初宮参り、当病平癒祈願、自動車清祓、家祈祷、地鎮祭等随時受け賜っております。ご相談ください。

## ホームページ

宮司手作りのホームページがありますのでご覧ください

さい。行事の前後に更新しています。アドレスは <http://www31.ocn.ne.jp/~ishihak> です。携帯用HPは次のQRコードをご利用ください。なお、携帯用は行事に限った文字情報のみです。



## 後記

地図には自動車参道を書いています。独立した宮山の東側を回って北側から坂道を登りますと、駐車場があります。



前々号から裏表印刷にして、毎号石高神社の簡単な紹介をするようにしました。社報配布など町内会長はじめ役員の方々にはお世話になり、ありがとうございます。